

民報

あばしり

NO.1092

2016.10.30

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四三二 四四五八  
F 四三二 四四五七

# 見つめてみよう暮らしと環境



リユース展で並べられた自転車

し、希望される市民に無料で提供していただきました。ほとんどの展示物が引き取られたそうです。午前12時から、網走産のジャガイモ、人参の詰め合わせがプレゼントされました。改めて、物を大切にする生活のあり方や環境について考えさせられる取り組みでした。

## 南スーダンへ送らせない

戦争法（安保法制）の最初の発動が南スーダンに派遣された自衛隊員にされようとしています。24日にはマスコミに『駆け付け警護』の新任務のための訓練を公開しましたが、武器

網走市、網走消費者協会、藻琴川環境保全対策連絡協議会が主催する第34回みんなの生活展・リユース展が、北コミュニティセンターで行われました。みんなの生活展では「大切なこと：今生活を見直す」網走産小麦を使ったパンの試食会を開催（先着300個）をはじめ、玉子・シフォンケーキ、スモークチキン、フルーツ、有機野菜の販売などがありました。また、技能士による包丁研ぎ（1本300円）もありました。リユース展では、市で収集した粗大ごみの中から再利用できるもの（自転車、タンス、カラーボックス、灯油タンクなど）を修理して展示



銀杏の実

## 松浦春戦メモ



教育委員会と市立郷土博物館主催のモヨロ文化市民講座に参加しましたが、エコセンター大会議室は参加者でいっぱいになっていました。講師は、瀬川拓郎氏（旭川市博物館館長）で、演題は「モヨロ人のゆくえ」でしたが、はじめの「日本書紀」のお話は習ったことのない歴史だったので「ちんぷんかんぷん」分かりませんでした。

オホーツク人（モヨロ人）がどのような生活をしてきたのか、興味深く聞きました。アイヌの人たちやオホーツク人は、私の想像以上に広範囲に行動していたことを知り講演を聞いて良かったと感じました。23日は、みんなの生活展からはじまりモヨロ文化講座に参加するなど忙しい1日となりましたが、秋を感じる充実した1日でもありました。

## 街・スポットライト

安倍政権の強行政治に危機を感じた市民の人達が、昨年からの運動を継続し強めています。その一つ「平和の願いを網走から」と活動しているグループは毎週金曜日に「道の駅」前で一人ひとりが平和の願いを声に出しアピールしています。その中に清里から毎週駆け付けプラカードに自らの思いを書き込み掲げている夫婦がいます。

「とにかく今の安倍政治には我慢なりません。ここでプラカードを掲げても事態は変わるとは思いませんが、ここで声をあげ続けます」と話しています。そんな思いがきっかけで次世代にも繋がるのではないのでしょうか。

## 流氷

▼世界が注目したノーベル文学賞。日本の村上春樹氏が毎回受賞するのではないかと言われながら今年も結果はシンガーソングライター、ポップ・ディラン氏（75）でした。音楽家が文学賞を受けるのは初めてで色々と波紋が広がっているようです。75歳のディランとはどんな人でしょうか▼6歳から18歳までを故郷ミネソタ州ヒビングという小さな鉱山の町で過ごしました。多様な人種が集まる労働者たちの生活からディランは社会の厳しい現実を知り社会主義の意識を持ちました▼1963年、作詞作曲した「風に吹かれて」が世界中に広がっていきます。このヒット曲は私たちでもすぐに歌えました▼思い返せばもうずいぶん昔の事ですが集会や色んな集まりの時、開会前にはみんなが歌を歌いました。テンションを上げ気持を一つにするためのウォーミングアップのようなものですが、いつもシメは「風に吹かれて」でした。ディランの受賞は私の若き日の思い出をよみがえらせてくれ、音楽が持つ力も感じられました。かつてみんなと歌った時や場所を思い出しながらこれを書いていたらちやうど10月23日の赤旗日曜版にポップ・ディランの記事がありました。併せて読んでください。（U）

